

# 衆議院安全保障委員会ニュース

【第217回国会】令和7年3月21日（金）、第2回の委員会が開かれました。

## 1 国の安全保障に関する件

- ・岩屋外務大臣、中谷防衛大臣及び政府参考人に対し質疑を行いました。  
（質疑者）篠原豪君（立憲）、重徳和彦君（立憲）、升田世喜男君（立憲）、空本誠喜君（維新）、橋本幹彦君（国民）

（質疑者及び主な質疑事項）

### 篠原豪君（立憲）

#### （1）米国の外交戦略

- ア ロシアによるウクライナ侵略について我が国が対外的に発信している外交上の基本スタンス
  - イ 米国のインド太平洋地域に対する戦略的判断についての政府の評価
  - ウ 米国の対中戦略重視へのシフトがロシアによるウクライナ侵略の遠因になったとの見方に対する岩屋外務大臣の見解
  - エ ロシアの侵略行為を事実上容認することになるヘグセス米国防長官の発言が見られる中での米国の停戦の在り方に対する同盟国としての我が国政府の見解
  - オ 我が国が同盟国、友好国及びグローバルサウスとの関係を主権国家として独自に構築することについての岩屋外務大臣の見解
  - カ 来るべきヘグセス米国防長官との防衛大臣会合において、防衛費負担の増額を要求する米側に対して我が国の考えを主張し、理解を得る見通し
  - キ 米国による在日米軍強化計画の中止検討との報道に対し我が国の立場を堅持し交渉に臨む必要性
- （2）ウクライナ情勢を受けての欧州の安全保障についての政府の評価及び日欧の連携を推進する必要性
- （3）G7外相会合（2025.3.14）の共同声明でロシアに求めた「平等な条件での停戦の合意」及び「完全に履行」の意味及び停戦に向けた我が国の取組方針

### 重徳和彦君（立憲）

#### （1）国産の防衛装備品

- ア 地名に由来した艦艇等の後援会の設立状況
- イ 豪州政府が進める次期汎用フリゲートの最終候補の一つである「もがみ」型護衛艦の能力向上型である令和6年度型護衛艦の強み及び最終選考に向けた政府の取組状況

#### （2）トランプ政権への我が国の対応

- ア コルビー国防次官候補が米上院指名承認公聴会において我が国の防衛費をGDP比3%に引き上げるべきと発言したことに対する中谷防衛大臣の所見
- イ 防衛費について数字ありきではないというのであればGDP比2%に「達するよう」という表現を改める必要性についての中谷防衛大臣の見解
- ウ トランプ政権からの要求圧力について、他の自由主義諸国との連携を含め精力的に対応する必要性

#### （3）G7外相会合（2025.3.14）でのウクライナ停戦協議

- ア ロシアが停戦に応じない場合に我が国がロシアに対する経済制裁を強化することの可否
- イ ウクライナ停戦協議におけるEUと米国の温度差
- ウ ロシアによる軍事侵攻が続くウクライナが主催する黒海で実施された米国・ウクライナ共催の多国間演習「シーブリーズ」に自衛官が参加することの妥当性
- エ 今年のシーブリーズに我が国の自衛隊が参加する予定の有無

- (4) 我が国の能動的サイバー防御は外国勢力からの攻撃を防御するという目的に限定されていることを国民に明確に示す必要性

**升田世喜男君（立憲）**

- (1) 日米首脳会談（2025. 2. 7）
- ア 日米首脳会談に同席した岩屋外務大臣が抱いたトランプ米大統領の印象及び同会談の雰囲気
  - イ 日米首脳共同声明に「法の支配」が盛り込まれなかったことについての岩屋外務大臣の認識
  - ウ イについての中谷防衛大臣の見解
  - エ 中谷防衛大臣の所信において中国の対外的姿勢及び軍事動向を「これまでにない最大の戦略的な挑戦」と表現したことの妥当性
  - オ 我が国の防衛費をGDP比3%に引き上げるべきとの米政府側の発言の真意についての中谷防衛大臣の見解
  - カ ロシアによるウクライナ侵略の停戦を目指すトランプ米大統領の本当の目的についての中谷防衛大臣の見解
  - キ カについての岩屋外務大臣の見解
  - ク 外務省内にトランプ米大統領の考え方を研究するチームを設ける必要性
- (2) 我が国の安全保障における青森県の位置付け及び県内の自衛隊基地が果たしている役割
- (3) 北朝鮮から青森県内の原発に向けて3発のミサイルが発射された場合における迎撃の可否
- (4) インテリジェンスの強化に向けた防衛省の取組

**空本誠喜君（維新）**

自衛官の処遇改善

- ア 自衛官が自衛隊に入隊した動機についての調査方法
- イ 自衛隊を応援するために国会議員が自衛隊家族会に入会する必要性
- ウ 任期制自衛官が任期中に大学に編入できる制度の創設を検討する必要性
- エ 任期中に大学に行けるようにした上で任期制自衛官の任期を拡張する必要性
- オ 任期制自衛官が任期中に重機免許などの資格を取得する機会を増やす必要性
- カ 自衛官独自の俸給体系の見直しに向けた今後の取組
- キ 自衛官に恩給制度を導入する可能性
- ク 任期制自衛官の再就職先の多様化を図る必要性
- ケ 女性自衛官用の宿舍等の整備の進捗状況
- コ 年金受給開始年齢に達していない退職自衛官を病院船の運航などで再任用し活用する必要性

**橋本幹彦君（国民）**

- (1) 自衛官の専門性・特殊性
- ア 自衛官の「名誉と誇り」についての中谷防衛大臣の考え
  - イ 服務の宣誓の冒頭における「平和と独立」という言葉は、自衛官の士気を維持し、認知戦に耐えることができるのかという懸念に対する中谷防衛大臣の認識
  - ウ 自衛官が何のために戦うのか根本的な問いに答えるヒントを政府として示す必要性
  - エ 自衛隊における「敵」という言葉の定義
  - オ 自衛隊における殉職隊員に対する顕彰の内容
  - カ 市ヶ谷の防衛省敷地内に慰霊碑地区が設置されていることの妥当性
  - キ 慰霊と顕彰との違い

(2) 我が国の国際情勢の認識

ア 中谷防衛大臣が米国の対日防衛政策の一貫性・継続性を信じる根拠

イ 外務省における米国軍隊の動向の把握方法

ウ 外務省国際情報統括官の予算が 10 年間で 3 倍に増額されたことにより拡充される当該組織の領域及び能力

エ 防衛省内のインテリジェンスコミュニティの全体調和の手段及び外務省と防衛省の情報活動の役割分担

(3) 防衛省内における C-17 輸送機導入についての検討の有無